

求人広告、人材サービス手掛ける

投資判断 (6/3)

クイック (4318・東証2部)

新規 BUY

株価	投資単位	時価総額	年初来高値	年初来安値	PER(予)
646円 (6/3)	100株	123.4億円 (6/3)	860円 (14/1/8)	490円 (14/5/13)	16.2倍 (6/3)

15年3月期業績に上ブレ余地

■14年3月期は4期連続の増収増益

14年3月期連結業績は、売上高が前期比17.2%増の10,202百万円、営業利益が同57.1%増の1,033百万円だった。**4期連続の増収増益となり、過去最高益を更新。売上高は08年3月期以来の100億円台乗せ。**期初会社計画の売上高9,500百万円、営業利益820百万円も上回って着地した。アベノミクス効果による景気回復で事業環境は良好、求人広告や人材サービスの取引が増加した。

セグメント別では情報出版以外増収を達成、リクルーティング事業が同17.5%増、人材サービス事業が同22.9%増とけん引役に。情報出版事業は掲載規定を厳格化したことで微減となったが、影響は限定的。利益面では全セグメントで増益を達成。リクルーティング事業の営業利益が同31.9%増、人材サービスは同54.8%増と主力事業が大幅に伸びた。

■建築関連強化、15年3月期業績予想は保守的

15年3月期会社計画の通期業績は売上高が前期比7.8%増の11,000百万円、営業利益は同8.3%増の1,120百万円。上期は減益を予想しているが、これは人材サービス事業におけるプロモーション費用を厚くすることや人件費増（前年同期で1.6億円程度）を織り込んでいるため。このプロモーションの強化で、下期は前年同期比で利益が大きく伸長する見通しだ。

主力のリクルーティング事業では求人広告以外にも採用から育成といったワンストップでのサービス提供で取引社数の拡大を目指すとしており、良好な事業環境からモーニングスターでは売上、営業利益ともに会社計画（売上高が同8.4%増、営業利益が同10.7%増）を上回る2ケタ台後半の伸びを想定している。また、人材サービス事業は看護師求人専門サイト「看護roo!」（カンゴルー）のプロモーション強化に加え、2020年の東京オリンピックを控えて需給がひっ迫する建設分野の「建設・設備



求人データベース」、専門分野で高いシェアを持つ「技術士求人データベース」などのプロモーションにも注力する方針。**人材サービスでは登録者獲得にかかるコストの増加により利益率は低下する見通しだが、同部門の利益成長見通し（前期比1.1%増）は固めといえそうだ。**また、その他事業では、人事担当者向けの「日本の人事部」で大規模なカンファレンスを開催する他、自動車・シェールガス業界の好調による米子会社QUICK USA, INC.の収益貢献が想定され、その他事業も堅調に推移すると予想される。**期初ながら、モーニングスターでは会社計画には上ブレ余地があると見ている。**

株価は今期予想EPS(39.9円)ベースのPER16倍台(6月3日終値ベース)に割高感はない。業績予想は保守的で上ブレ余地がある上、今期予想配当年間12円(前期は記念配2円を含む13円)は実質増配と株主還元姿勢もプラス材料。投資判断は「新規BUY」。想定株価レンジは、700円～800円とする。

(宮本 裕之)

業績動向 (6/3時点)

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	営業利益 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	当期純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS(円)
13年3月期 実績	8,708	12.5	658	21.8	763	33.8	473	32.5	25.3
14年3月期 実績	10,202	17.2	1,033	57.1	1,078	41.1	665	40.7	35.5
15年3月期 会社予想	11,000	7.8	1,120	8.3	1,170	8.5	750	12.7	39.9
MS 予想	11,500	12.7	1,220	18.0	1,250	15.9	800	20.2	42.6
16年3月期 MS 予想	12,500	8.7	1,350	10.7	1,400	12.0	900	12.5	47.9

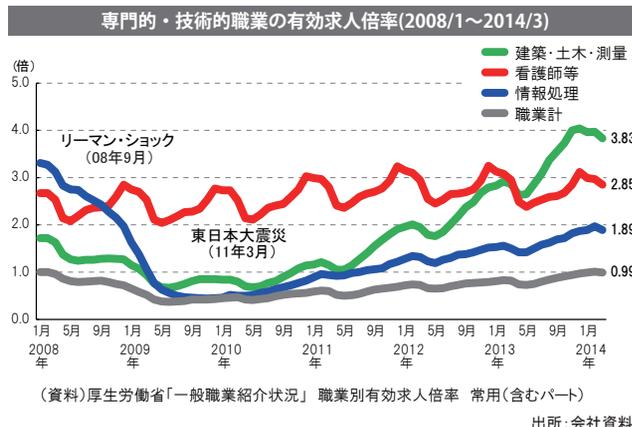
本資料は投資判断の参考としての情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。銘柄の選択、投資判断の最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。本資料に掲載された意見は作成日における判断であり、予告なしに変更される場合があります。本資料に掲載された意見・データは、当社が信頼できると判断したデータ等により作成いたしました。その正確性、安全性等について保障するものではありません。著作権、知的所有権等一切の権利はモーニングスター株式会社並びに Morningstar, Inc. に帰属しますので、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

■ 会社概要

関西地盤の人材サービス会社。リクルート出身の和納勉社長が、リクルートの求人広告掲載枠を取扱う代理店として設立した。セグメント別では、リクルートのメディアを活用した人材採用広告が主体のリクルーティング事業。看護師専門サイト「看護roo!」(カンゴルー)を主体に、建設業界へ特化した「建設・設備求人データベース」、技術者向け「技術士求人データベース」など専門性に特化した求人サイトを展開する人材紹介サービス。人材派遣や紹介予定派遣などアウトソーシング事業も手掛けている。また、石川、富山、福井の北陸3県と新潟県を中心に雑誌やウェブなどを手掛ける情報出版事業がある。その他事業では、人事採用担当者向けのウェブサイト「日本の人事部」や、海外事業を手掛けている。海外事業では米国のQUICK USA, INC.が自動車やシェールガス業界の恩恵を受け、中西部への派遣要請が好調。ただ、中国は外資の社会保険料増額などで中国人労働者への置き換えが進んでおり苦戦。ベトナムにも拠点を設立、インドシナ諸国での人材サービスなど新たな収益拡大の可能性を模索している。

■ 事業環境と展望

アベノミクスによる景気回復から、雇用の改善が進んでいる。厚生労働省がまとめた4月の有効求人倍率(季節調整済)は1.08倍と7年9カ月ぶりの水準で、17カ月連続で改善。また、総務省が発表した4月の完全失業率は3.6%と完全雇用水準に達している。ただ、需給のひっ迫は当社にとってすべてプラスに働くとはいえない。例えば、看護師マーケットは看護師資格を保有し就業していない層も含め約200万人とされており、マーケット自体が拡大しているわけではない。競争激化により登録者獲得にかかるコストが上昇しており、利益率の悪化を招く可能性もある。もっとも、当社には業界の認知度の高いサイト「看護roo!」などがあり競争優位性は高いといえる。



看護roo! 転職サポート

看護師さんの求人情報が 利用者満足度 96.2% どこよりも詳しくわかる。

看護roo! 転職サポートを利用する 無料

ページURL: <http://kango.919.co.jp/>

■ リスク要因

リクルーティング事業、人材サービス事業、情報出版事業、その他事業を展開しているが、いずれも参入障壁が低い事業となっており、ベンチャー企業から大企業まで競合関係が生じている。今後競争激化が一段と進んだ場合は、業績に悪影響を及ぼす可能性がある。また、リクルーティング事業で取り扱う求人広告掲載枠は、一部を除きリクルート社の求人広告媒体に掲載されるもので、リクルートへの事業依存度は高い。人材サービス事業の看護師紹介は、入退社や配置転換と連動した人事異動が行われる年度初め(4月)に集中する傾向がある。一方で、リクルーティング事業などは新卒採用商品の販売などが増える下期に利益が偏る傾向がある。

株主還元 (6/3時点)

■ 配当の状況

		1株当たり配当金		
		中間期末	期末	年間
13年3月期	実績	4円	4円	8円
14年3月期	実績	5円	8円	13円
15年3月期	会社予想	7円	5円	12円

※14年3月期期末配当は普通配6円、記念配2円

■ 株主優待

毎年3月31日現在、1,000株以上保有の株主に対し浅原千代治氏監修のオリジナルガラス工芸品を贈呈

競合他社比較 (赤太字は競合他社に比べ優位な数値) (6/3時点)

	クイック (4318・東証2部)	SMS (2175・東証1部)	ディップ (2379・東証1部)	
基本事項	株価	646円	2,615円	2,686円
	投資単位	100株	100株	100株
	最低投資金額	64,600円	261,500円	268,600円
	決算月	3月	3月	2月
株価指標	PER(予)	16.2倍	31.4倍	24.0倍
	PBR(実)	3.9倍	8.9倍	6.9倍
	配当利回り(予)	1.9%	-	1.3%
成長性	売上高成長率(予)	7.8%	30.0%	18.8%
	営業利益成長率(予)	8.3%	10.1%	31.3%
	EPS成長率(予)	12.6%	23.8%	31.8%
収益性	売上高営業利益率(予)	10.2%	12.2%	14.5%
	自己資本当期純利益率(実)	23.3%	24.7%	24.2%
	総資産経常利益率(実)	22.4%	30.5%	25.2%
財務安定性	自己資本比率(実)	60.1%	71.5%	56.0%
	デット・エクイティ・レシオ(実)	9.9%	0.0%	18.5%
	流動比率(実)	194.1%	248.2%	159.9%

競合には介護・医療分野に求人情報サイトを運営するSMS(2175)、アルバイトサイトに強みを持つディップ(2379)を挙げた。

■ 成長性

15年3月期の予想連結業績は、売上高が前期比7.8%増、営業利益は同8.3%増と5期連続増収増益見通し。上期は売上高こそ前年同期比8.1%増を想定しているが、営業利益は前年同期比4.4%減と減収を見込む。ただ、これは上期にプロモーション費用などを厚くするため、下期以降は投資の成果が表れ、通期では増収増益を維持すると予想される。ただ、モーニングスターでは15年3月期の会社計画は保守的と見ており、2ケタの増収増益を予想している。

■ 収益性

14年3月期の売上高営業利益率は10.1%と前期の7.6%から大幅に上昇、15年3月期の営業利益率も10.2%と高水準を維持する見通し。プロモーション費用を厚くする他、人件費の上昇により上期は減益となるが、プロモーションによる効果で下期利益は拡大する見通し。収益性については他社とそんな色ない水準。

■ 財務安定性

14年3月期の自己資本比率は60.1%と13年3月期の58.6%から上昇している。負債の圧縮に加え、自己資本の増加で、デット・エクイティ・レシオは9.9%と前期の15.0%から低下している。流動比率も194.1%と200%に迫る水準で、財務面に不安はない。

モーニングスター株式会社
調査分析部 株式分析室 アナリスト 宮本裕之
03-6229-0810 hmiyamoto@morningstar.co.jp

モーニングスター・エクイティ・リサーチレポートの読み方

特徴

(1) 第三者機関として中立的な立場を重視

モーニングスター・エクイティ・リサーチレポートは、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場を重要視し、客観的な比較・評価情報の提供に努めています。モーニングスターがカバーする全銘柄に対し、アナリスト個人の見解に加え、複数のアナリストから成る銘柄評価委員会の意見を反映し、投資判断・想定株価レンジ・業績予想を決定しています。

(2) カバー銘柄のユニバース

カバー銘柄は下記対象銘柄から銘柄評価委員会が選出しています。

【銘柄選定基準】

- アナリストのカバー率が低い国内新興市場上場銘柄
- 個人投資家からの人気が高い銘柄（各オンライン証券のデータを参考）
- 時価総額を考慮（50億円程度以上を目安）
- 整理、監理銘柄や継続疑義、債務超過銘柄を除く

(3) 3段階の投資判断

カバー銘柄に対する投資判断は、モーニングスターの各アナリストによる調査・取材・分析を基に銘柄評価委員会の協議を経て決定しています。下記の基準を基に3段階（最上位から「BUY」（強気）、「HOLD」（中立）、「SELL」（弱気））で予測しています。

BUY（強気）：今後、半年間の株価推移が現値水準を15%以上上回ると予測される場合

HOLD（中立）：今後、半年間の株価推移が現値水準の-15%～+15%にとどまると予測される場合

SELL（弱気）：今後、半年間の株価推移が現値水準を15%以上下回ると予測される場合

モーニングスターでは業績見通しや財務状況、株価の値動きなどに関する見解の変更により、機動的に投資判断を変更します。ただし、影響力のある、新しい情報が明らかとなり、判断に時間を要する場合には投資判断を「Under Review」（保留）とする場合があります。また、取引時間中の投資判断の変更は行いません。アナリストが退職した場合などは投資判断をいったん「Suspension」（停止）とする可能性があります。

(4) 中期的な想定株価レンジ

向こう半年間で想定される株価のレンジを示します。株価指標などを用いた適正株価水準のほか、チャートのフシ目や直近の高値・安値、トレンドライン、移動平均線などテクニカル面や価格帯別出来高なども考慮して、中期的な上値メド、下値メドを決定しています。

項目説明

■ アナリストコメント

直近の業績動向や事業環境について、取材に基づいた評価をコメントしています。投資判断の根拠や業績予想に対する見方、今後の事業展望などを記載し、株式投資をするうえで最も重要な情報を掲載しています。また、読みやすさを考慮してテーマごとに2～4つのパラグラフにまとめているほか、重要なポイントを太字で強調しております。

■ 業績動向

通期決算の実績2期分と会社予想、およびモーニングスターの独自予想を今期、来期の2期分掲載しております。各銘柄への取材に加え、四半期毎での過去の業績傾向やセグメント毎での分析に基づいて業績数値を予測しています。

■ 会社概要

各銘柄がどのようなビジネスを展開しているのか、どこに収益源があるのかなどを詳しく解説するほか、今後どの事業に力を入れていくのか、中期的にはどのような事業展開を図っていくのかなどの中期的な見通しも取材を踏まえて掲載します。

■ 事業環境と展望

各銘柄が属する業界について、足元の状況や将来の成長性などの観点から解説します。競合他社への取材も実施することで業界全体を多方面から捉えるほか、業界団体のデータなど具体的な数値も掲載します。

■ リスク要因

各銘柄が有するリスクを解説します。事業面でのリスクに加え、業績面や財務面、株式市場独自のリスクなども考慮して様々な角度から見たリスクを示します。

■ 成長性

今期会社計画の売上高成長率、営業利益成長率、EPS成長率を競合他社と比較するほか、過去の経緯や主力事業の成長力などを評価します。

■ 収益性

今期会社計画の売上高営業利益率と前期実績の自己資本当期純利益率、総資産経常利益率を競合他社と比較するほか、過去からの収益性の変動などを評価します。

■ 財務安定性

前期実績の自己資本比率、デット・エクイティ・レシオ（＝有利子負債 / 自己資本 × 100）、流動比率（＝流動資産 / 流動負債 × 100）を競合他社と比較するほか、現預金やキャッシュフローなどの観点から財務安定性を評価します。